信州大学「信州データサイエンスプログラム（仮称）」
リテラシーレベル自己点検・評価書（令和 4 年度前期）

信州大学全学教育機構長
高野　嘉寿彦

1. 点検の概要

令和 4 年 11 月 8 日（火）に実施された，令和 4 年度第 5 回教育企画委員会共通教育部会において，本プログラム（リテラシーレベル）の修了に必要となる科目「データサイエンスリテラシー」の実施状況・成果について点検・評価を行った。

点検にあたり，当機構の平井佑樹准教授から次のとおり報告があった。

- 令和 4 年度前期では，データサイエンスリテラシーの前身となる「データサイエンス入門 A」を 1 コマ，「データサイエンス入門 B」を 3 コマ開講した。
- どちらの科目においても，前半部分においてデータサイエンスリテラシーに対応した授業を展開した。授業に用いた教材・課題・成績評価方法等は同一である。
- データサイエンス入門 B では，履修取消者を除き，3 コマ合わせて 177 名の履修があった。学部別履修者数は，人文：7，教育：27，経法：15，理：11，医：15，工：78，農：4，繊維：20 であった。
- データサイエンスリテラシーは完全オンデマンド実施となるが，データサイエンス入門 A・B では一部で対面授業も併催し，履修者の反応や修得状況を確認した。
- データサイエンスリテラシーと同じ方法で成績を評価した場合，データサイエンス入門 B では 177 名中 10 名が単位未修得となる成績であった。ただし，この 10 名すべては課題未提出が少なくとも 1 回あった。すなわち，取組の質はともかくとして，課題すべてに取り組み提出等を行った履修者は単位が修得できる成績であった。
- 全体としては理系学部生の方が良い成績であったが，「他の履修者も閲覧できる質問掲示板にて授業に対する質問を行うこと」で加点する制度を設けていたため，文系学部生であっても挽回できていた。
- 学生による授業アンケートから，次の 5 点に関する知見を得た。
  - 学習管理システム上で行った小テストの評判は良かった。ただし，実施方法や内容（範囲や難易度）については引き続き検討が必要である。
  - オンデマンド実施の評判は良かった。ただし，小テストでの採点を厳しくする（例：受験可能回数を 1 回にする）なら，オンデマンド実施回の教材については，十分な配慮が必要である。
  - 「授業への質問」掲示板の利用については，質問回数が最終成績に反映されることもあって大好評であった。
  - 数学が含まれる授業回は文系生にはつらかったようである。別途，復習用のコンテ

ンツが必要かもしれない。

- 統計ソフトウェア R のプログラムや KH Coder 3 に関する情報提供など，熟達者向けのコンテンツの準備は好評であった。

以上の報告を受け，次のとおり，部会員との質疑応答が行われた。

・ 数学に関する復習用のコンテンツについて準備は進んでいるか。

→ 準備を進めており，後期開講のデータサイエンス入門 A・C・D において提供している。検証は引き続き実施する。

・ 授業に対する質問を行うことで挽回できる旨はシラバスに書いておいても良いのではないか。

→ 承った。データサイエンスリテラシーのシラバス作成時に対応する。

2. 評価の概要

すべての課題に取り組み提出することで単位が修得できる状況であったことから，特に大きな問題点は見当たらなかった。データサイエンスリテラシー開講に向けて，引き続き準備・検証を行っていくことを確認し，「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル)」への対応も引き続き行うことを確認した。

以上